

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

|               |  |     |             |         |
|---------------|--|-----|-------------|---------|
| 科目名(英)        | ゼミナールⅣ(Seminar Ⅳ)  |     | 授業コード       | E002711 |
| 担当教員名         | 河村 裕次  |     | 科目ナンバリングコード | E41204  |
| 配当学年          | 4  | 開講期 | 前期          |         |
| 必修・選択区分       |  | 単位数 | 4           |         |
| 履修上の注意または履修条件 |  |     |             |         |
| 受講心得          | ゼミは発表・討論を通じて学ぶ場であり、自分の考えていることを相手に正確に伝えることを意識的に行っていきます。そのためにも問題を明確化するとともに、積極的な参加を期待します。 |     |             |         |
| 教科書           |  |     |             |         |
| 参考文献及び指定図書    | その都度紹介します。   |     |             |         |
| 関連科目          | 社会福祉原論, 高齢者福祉論, 障害者福祉論, 児童福祉論, 地域福祉論, 社会保障論など  |     |             |         |

|       |  |
|-------|--|
| 授業の目的 | 近年の我が国では、少子高齢化社会を本格的にむかえ、社会福祉の転換期を迎えています。こんにちの福祉においては、利用者の自立支援、利用者による選択や契約等による福祉サービスの利用、権利擁護、第三者評価による福祉サービスの質の向上、地域福祉活動の拡充などが求められています。<br>私のゼミナールでは、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉等を包括した広い視点から社会福祉をとらえ、こんにち起きている問題や事件等を題材に専門的な知識及び技術の習得を目指します。最終的には、これからの社会福祉について理解と考察を深めていきます。 |
| 授業の概要 | 各自が掲げたテーマに即して卒業研究論文の作成を行います。   |

| ○授業計画   |             |
|---|-------------|
| 学修内容  | 学修課題(予習・復習) |
| <b>第1週：オリエンテーション</b><br>本講義の目的および内容等について説明します。また、履修状況の確認を行います。  |             |
| <b>第2週～第14週：卒業研究論文の作成</b><br>各自の卒業研究論文の進捗状況について確認をし、研究計画の検討を行います。   | レポート提出      |
| <b>第15週：まとめ</b><br>各自の卒業研究論文の進捗状況について確認をし、夏季休暇中の計画を作成します。   | 研究計画書の提出    |
| <b>第16週：オリエンテーション</b><br>本講義の目的および内容等について説明します。また、履修状況の確認を行います。   |             |
| <b>第17週～第29週：卒業研究論文の作成</b><br>各自の卒業研究論文の進捗状況について確認をし、研究計画の検討を行います。また、卒業研究論文完成後は発表会に向けての資料及びパワーポイントの作成を行います。 | レポート提出      |
| <b>第30週：まとめ・卒業研究論文発表会</b><br>各自が作成した卒業研究論文の発表会を行います。  |             |

|   |                                 |        |
|---|---------------------------------|--------|
| 卒業研究論文の作成を中心とした作業を、ゼミ全体で確認・検討することにより、自分自身の問題意識を明確化していくとともに、卒業論文の完成を目指していきます。また、必要に応じて社会福祉士国家試験合格に向けての試験対策や就職活動の指導も行います。 |                                 |        |
| 授業の運営方法   | (1)授業の形式                        | 「講義形式」 |
|   | (2)複数担当の場合の方式                   |        |
|   | (3)アクティブ・ラーニング                  |        |
| 地域志向科目  | カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目 |        |
| 備考  |                                 |        |

|                      |   |
|----------------------|---|
| ○単位を修得するために達成すべき到達目標 |   |
| 【関心・意欲・態度】           |   |
| 【知識・理解】              |   |
| 【技能・表現・コミュニケーション】    | 卒業論文のテーマについて、その課題等に対する自分自身の考えを表現することができる。 |
| 【思考・判断・創造】           | 卒業論文のテーマについて、その現状を踏まえ、課題を考察することができる。      |

|   |                 |               |              |      |
|---|-----------------|---------------|--------------|------|
| ○成績評価基準(合計100点)   |                 |               | 合計欄          | 100点 |
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点                                   | 期末試験・中間確認等(テスト) | レポート・作品等(提出物) | 発表・その他(無形成果) |      |
| 【関心・意欲・態度】<br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。                         |                 |               |              |      |
| 【知識・理解】<br>※「専門能力(知識の獲得)」を含む。                             |                 |               |              |      |
| 【技能・表現・コミュニケーション】<br>※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 |                 | 50点           |              |      |
| 【思考・判断・創造】<br>※「考え抜く力」を含む。                                |                 | 50点           |              |      |

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 |   |
| 成績評価方法                             | 評価の実施方法と達成水準の目安   |
| レポート・作品等(提出物)                      | 卒業研究論文等をもとに総合的に判断します。<br>[Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。<br>[Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。<br>[Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。<br>[Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 |

|                  |  |
|------------------|--|
| 発表・その他<br>(無形成果) |  |
|------------------|--|